

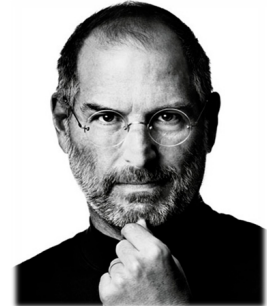
鶴の目、亀の目

The Eyes Of Steve Jobs

永田円了

アップルコンピュータのスティーブ・ジョブズ氏が亡くなった。享年 56 歳だった。かくも多くの革新的なワクワクするような商品をこの世に送り続けた人物。その原動力は一体どこから生まれたのだろうか。

今回はジョブズ氏もつ二つの視点; 鶴の目、亀の目、をテーマに展開する。



鶴の目



高所から全体を見る視点である。今人々は一体何を望んでいるのか。社会はどうあればいいのか。そのためには、どのような商品が必要とされるのか。

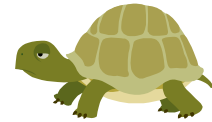
この視点から商品開拓に入る。この商品はこんな機能があって、こんなことができますよ、ではなく、人々がそれをやって嬉しいかどうか重要となる。

亀の目

細部にわたって妥協をゆるさない視点である。Ipod のウラ蓋を磨くのに新潟の研磨専門の工場を選んだという。一見気づかないウラ蓋にまで完璧性を求める理由はどこにあったのか。

何故そこまでこだわったのか？ この問いにジョブズ氏は次のように答えた。

「それは人間の感性にたいするリスペクト（尊敬）である」と。



ジョブズの哲学

夢を実現できるかどうかは、途中で諦めるかどうかにかかっている。People give up sooner than they succeed. 人生は限られている。

自分の信じる道を生きなければ、時間の無駄だ。他人の思惑ばかりを気にして、自分の内なる声を抑えてはならない。

貴方の心は本当になりたい自分を、すでに知っているはず、それ以外のことは、人生において大したことはない。

Everything else is secondary.

<事例>

クローズアップ現代より、スティーブ・ジョブズ
クローズアップ現代／コーチをつける社長たち
スティーブ・ジョブズ、スタンフォード大学卒業式でのスピーチ
龍馬伝より／君は何のためにこんなことしよるんか？
涙なしには見られないタイのテレビコマーシャル
Project Wisdom より、
浜矩子、過去の発想では新しい Wisdom は見つからない
キリストは大工だった、ブッダは王子だった
歌・She's Leaving Home vs. 別れの朝



The Original Macintosh: \$2495